

令和7年度 公共事業再評価調査書

担当部/課名	都市整備部 道路建設課
--------	-------------

再評価実施要件	<input type="radio"/> 未着手 (5年) <input type="radio"/> 長期間継続 (5年) <input checked="" type="radio"/> 再評価後 (5年) <input type="radio"/> その他 ()
---------	--

I 事業概要

事業種別	道路整備事業	事業方法	<input checked="" type="radio"/> 国補助 <input type="radio"/> 県補助 <input checked="" type="radio"/> 市単独																				
事業名	油川新城線道路整備事業	事業箇所	青森市大字油川地内																				
採択年度	平成 13 年度 (用地着手 平成 14 年度 / 工事着手 平成 18 年度)																						
終了予定年度	令和 15 年度																						
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・本路線は、市道森林軌道廃線通り線から国道280号バイパスを結ぶ延長815mの幹線道路である。 ・市道森林軌道廃線通り線から国道280号バイパスに接続することにより、青森港方面からの交通の分散が図られ、安全で円滑な交通の確保が図られる。 ・現在国道280号と国道280号バイパスを結ぶ県道234号津軽新城停車場油川線は、住宅密集地を経由し幅員が狭隘で交通量が多く、交通安全上からも本路線の整備が求められている。 																						
主な内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">区 分</th> <th style="width: 15%;">当初計画時</th> <th style="width: 15%;">再評価時</th> <th style="width: 10%;">増 減</th> <th colspan="2"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 計画延長</td> <td style="text-align: center;">815.0 m</td> <td style="text-align: center;">815.0 m</td> <td style="text-align: center;">0.0 m</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>② 計画幅員</td> <td style="text-align: center;">20.0 m</td> <td style="text-align: center;">20.0 m</td> <td style="text-align: center;">0.0 m</td> <td colspan="2"></td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">※事業量や総事業費の増減に係る説明等を記入。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%; margin-top: 5px;"></div>					区 分	当初計画時	再評価時	増 減			① 計画延長	815.0 m	815.0 m	0.0 m			② 計画幅員	20.0 m	20.0 m	0.0 m		
区 分	当初計画時	再評価時	増 減																				
① 計画延長	815.0 m	815.0 m	0.0 m																				
② 計画幅員	20.0 m	20.0 m	0.0 m																				
事業費	(単位:百万円)																						
	～R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	小計	R8年度～	合計																
○事業費	671	14	5	10	700 (a)	425	1,125 (e)																
うち①用地費	414	0	0	0	414 (b)	0	414 (f)																
②工事費	160	14	5	8	187 (c)	424	611 (g)																
③その他	97	0	0	2	99 (d)	1	100 (h)																

II 評価指標及び項目別評価

1 事業の進捗状況

事業の進捗状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">計画全体に対する進捗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○事業費割合</td> <td style="text-align: center;">62.2 % [(a)/(e)]</td> </tr> <tr> <td> うち①用地費</td> <td style="text-align: center;">100.0 % [(b)/(f)]</td> </tr> <tr> <td> ②工事費</td> <td style="text-align: center;">30.6 % [(c)/(g)]</td> </tr> <tr> <td> ③その他</td> <td style="text-align: center;">99.0 % [(d)/(h)]</td> </tr> </tbody> </table>	計画全体に対する進捗		○事業費割合	62.2 % [(a)/(e)]	うち①用地費	100.0 % [(b)/(f)]	②工事費	30.6 % [(c)/(g)]	③その他	99.0 % [(d)/(h)]
計画全体に対する進捗											
○事業費割合	62.2 % [(a)/(e)]										
うち①用地費	100.0 % [(b)/(f)]										
②工事費	30.6 % [(c)/(g)]										
③その他	99.0 % [(d)/(h)]										
説 明	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度に用地買収が完了し、計画的に工事を進めている。 ・東北新幹線との交差部分については、平成18年度から19年度にかけて施工済みである。(施工は鉄道運輸機構、青森市は負担金のみ) 										
問題点 解決見込み	・事業を進めるに当たっての阻害要因は特いない。										
事業効果 発現状況	(部分供用なし)										

2 社会経済情勢の変化

必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・青森港方面から新青森駅及び浪岡、弘前方面への移動距離及び時間短縮が見込める。また、交通の分散が図られることから、早期完成が望まれる。 ・国道280号と国道280号バイパスを結ぶ県道234号津軽新城停車場油川線は、住宅密集地を經由し幅員が狭隘で交通量が多いため、地域住民の安全・安心確保をするため、代替路線として整備する必要がある。
適時性	<ul style="list-style-type: none"> ・青森港方面から新青森駅及び浪岡、弘前方面へ向かう大型車両の交通量が多く、ガーラタウン付近交差点において渋滞が発生しており、その軽減が期待できる。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・本路線の整備により青森港方面から新青森駅、浪岡、弘前方面への交通の分散が図られ、安全で円滑な交通が確保できる。

3 費用対効果の分析

区分	主な項目	
	費用項目(C)	① 事業費
	② 維持管理費	10 百万円
	総費用	1,815 百万円
便益項目(B)	① 走行時間短縮便益	489 百万円
	② 走行経費減少便益	101 百万円
	③ 交通事故減少便益	31 百万円
	総便益	621 百万円
費用便益比(B/C)	費用便益比(B/C)	0.342
	補正費用便益比(B/C*α)	0.480

※地域補正係数(α):1.404(青森地方生活圈)
 ※費用対効果分析の根拠等
 (「公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針」(令和6年9月、国土交通省)
 「費用便益分析マニュアル」(令和7年2月、国土交通省道路局、同都市・地域整備局)
 「公共事業事後評価制度の導入等に関する提言」(平成22年4月、青森県公共事業評価システム検討委員会))

残事業の投資効率性

区分	主な項目	
費用項目(C)	事業継続の場合	1,815 百万円
	事業中止の場合	1,558 百万円
	差額	257 百万円
便益項目(B)	事業継続の場合	621 百万円
	事業中止の場合	0 百万円
	差額	621 百万円
費用便益比(B/C)	事業継続の場合	2.419
	事業中止の場合	0.000

※費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

4 コスト縮減や環境配慮などへの検討

コスト縮減等	<ul style="list-style-type: none"> ・路盤材、舗装材に再生材を使用し、経費の縮減を図ることとしている。
--------	---

III 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	<input checked="" type="radio"/> 継続実施 <input type="radio"/> 計画変更して実施 <input type="radio"/> 事業中止 <input type="radio"/> 事業休止
評価理由等	本路線の整備により、渋滞箇所を迂回することが可能となり、青森港方面から新青森駅、浪岡方面へのアクセスが向上することから、着実に事業を推進し、早期の事業効果発現を図る必要がある。